

# まちかど

● 荏原第一地域新聞 ●

## 第200号

令和元年(2019)11月発行

### 発行・事務局

○荏原第一地域センター○

小山3-22-3 (〒142-0062)

TEL 3786-2000

FAX 3786-5385

## 祝！おかげさまで創刊200号



「まちかど」広報委員 座長 石井 恒男

ついに200号に達しました。ある種の感慨はありますが、「ヤレヤレ」というのが実感ですね。ここまで辛抱強くご愛読いただいた読者の皆様に感謝いたします。また、町会長をはじめ事務局職員の皆様にお礼申し上げます。編集事務に携わってきた広報委員の皆様、お疲れ様でした。

### 皆様の心を楽しく

荏原第一連合町会

会長 戸田 光則

このたびは『まちかど』発刊200号誠におめでとうございます。花に興味を持つようになり、俳句・川柳など情景が浮かび、感心させられます。200号は通過点ではありませんが、今後とも皆様の心を楽しくしてくれましよう、願っています。発刊に携わる皆様に感謝しております。

## 花めぐり

### ビワ

ビワは秋深まった頃、枝の先に白い小さな花が集まって咲きます。地味な目立たない花ですが、良い香りがします。初夏には黄色やオレンジ色の可愛い実をつけます。ビワの名は、中国語のピーパがビワになったという説、また、実や葉形が楽器の琵琶に似ているからともいわれています。

ビワの実には大きな種がいくつも入り「食べるころが少ないなあ」と思っていました。案外そうでもないようです。「ビワの絵本(農文協)中井滋郎編・赤池佳江



中原公園にて撮影

子絵)には可食率(食べられる部分)はバナナよりも大きいと書いてありました。

花言葉「治癒」は葉や種が古くから薬用(お茶、湿布、入浴剤)として利用されていたからでしょう。他に「静かな思い」「ひそかな告白」など。

(小山1丁目・河原 マサ江)

当初は年4回の発行でスタートその後、毎月1回の発行に変更して現在に至っています。ここで、『まちかど』が発行されるまでのおおまかな流れをお話しよう。まず、広報委員は、毎月、どのような内容にするか協議します。内容が決まったら取材して執筆に取りかかります。原稿がそろった



創刊号(昭和61年7月1日 発行)

ら、割付(レイアウト)です。記事の順番や写真の位置等を決める作業です。こうして紙面が出来上がったら、試し刷りをします。広報委員が目を通し誤字や表現の誤りを訂正します。これで版下が出来上がり印刷所へ回して刷り上がりです。つまり、200号に至るまで、この編集行程を200回繰り返したことになります。

さて、これからです。令和の新しい時代に向けて心機一転、さらに街中に繰り出し身近な話題や目の前の小さな出来事に耳を傾け、キメ細かい紙面づくりを目指していきたいと思えます。どうぞ、これからも一層のご支援、ご愛読のほどお願い申し上げます。

## 災害対策強化に向けて

### 総合防災訓練 985名が参加



大迫力の一斉放水訓練

品川区防災協議会・荏原第一地区協議会主催の総合防災訓練が10月20日(日)に、林試の森公園にて開催されました。午前9時に開会式が行われ、濱野区長をはじめ、消防署等の関係機関も出席しました。

そして、小山台一丁目町会河野会長の司会のもと、荏原第一地区協議会の戸田会長の訓練開始宣言が行われ、訓練がスタートしました。ローテーション訓練では、三角巾を使用した応急救護コーナー、消火体験装置「ほのお君」を使用した初期消火コーナー、地震体験車、煙ハウスを使用した体験コーナーが設けられました。その他にも、防災関連用品展示の防災コーナーや、子どもたちの笑顔がはじけた消防車・救急車との記念撮影、親子防災体験コーナー等、内容が盛り沢山でした。最後は、一斉放水訓練。区民消防隊、ミニポンプ隊、荏原第一中学校生徒、荏原消防団による一斉放水は圧巻で、場内からは大きな拍手が送られました。総勢985名の方々にご参加いただきました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。(事務局)

## 台風19号 初の自主避難所 後地シルバーセンターに開設

大型台風19号が接近中の10月11日、品川区が11か所の自主避難施設を開設しました。小山二丁目東部に所在する後地シルバーセンターもその一つです。

10月12日早朝に町会幹部で、雨の中拡声器を持って「品川区が自主避難施設を後地シルバーセンターに開設しました。希望の方は水と食料を持ち、早めの自主避難をお願いします。」と町内に広報活動を行いました。町会としては初の試みでした。赤ちゃんを連れた方、ご年配の方等、後地シルバーセンターに20人以上避難されたそうです。区の職員、町会の役員の方も共に一晩明かしてくれ、とても心強かったといえます。先日、老人会のごで何軒か家庭訪問した際に、「声をかけてもらえて良かったですか?」「また何かあった時には行っていいですか?」「病人を抱えていると不安で仕方ないので、皆さんと一緒にいたい」とのお声をいただきました。拡声器で町内に伝えるというアナログ的な伝達方法も重要だと実感しました。今後、災害時だけでなく訓練として実施しても良いのではないのでしょうか。(小山2丁目東部・山内 静子)